

956-22

昭和51年度 自昭和51年4月1日  
至昭和52年3月31日

事 業 報 告  
決 算 報 告 書

財団法人 日本常民文化研究所

956-22

昭和51年度事業報告，財産目録，貸借対照表，損益計算書並びに損益金処分案は次の通りであります。

昭和52年6月1日

財団法人 日本常民文化研究所

理事長 有賀 喜左衛門

理事 河岡 武春

" 渋谷 雅英

" 杉本 行雄

" 二野瓶 徳夫

" 宮本 馨太郎

" 宮本 常一

" 山口 和雄

監事 小宮山 若木

" 高木 一夫

目 次

- (一) 事業報告書
- (二) 貸借対照表
- (三) 損益計算書
- (四) 財産目録
- (五) 損益金処分案

貸借対照表

昭和52年3月31日

勘定科目	公益部		収益部		合計	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	138500		10680		149180	
普通預金	978822		3425		982247	
定期預金	500000				500000	
棚卸高			703000			
貸付金			130000		130000	
仮払金			228375		228375	
建物	5504917				5504917	
什器備品	522143				522143	
有価証券	35481422				35481422	
元入金	30445154				30445154	
元受金				30445154		30445154
借入金		50000				50000
未払金		301951				301951
預り金				230850		230850
基本金		800000				800000
通常財産		39761100				39761100
出版準備積立金		2400000				2400000
積立金		29240578				29240578
繰越損金			24038097			
小計	73570958	72553629	25113577	30680004	103229633	
当期利益		1017329				1017329
当期損失			5562427		5562427	
合計	73570958	73570958	30676004	30676004	104246962	104246962

損益計算書

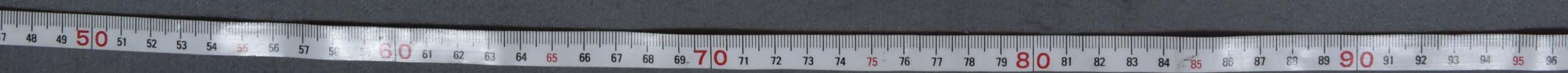
昭和52年3月31日

勘定科目	公益部		収益部		合計	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	借方
民具マンスリー	1,482,387	15,004,470			1,482,387	15,004,470
民具研究講座	1,035,133	10,326,166			1,035,133	10,326,166
水産庁委託費	2,765,300	2,765,300			2,765,300	2,765,300
売上				681,200		681,200
受取配当金		3,076,013				3,076,013
受取利息		171,778				171,778
雑収入		18,500				18,500
財産処分益		156,128				156,128
期首棚卸高			850,000		850,000	
期末棚卸高				703,000		703,000
給料手当	1,615,075		4,910,675		6,525,750	
会合費	6,982		0		6,982	
旅費交通費	33,229		188,301		221,530	
消耗品費	14,176		80,332		94,508	
印刷費	2,685		15,215		17,900	
通信費	42,884		243,013		285,897	
水道光熱費	9,554		54,141		63,695	
資料蒐集費	74,734		298,936		373,670	
労務費	16,800		67,200		84,000	
租税公課	3,711		21,029		24,740	
減価償却費	281,122		0		281,122	
雑費	38,434		217,785		256,219	
財産処分損	281,270		0		281,270	
小計	7,703,476	8,720,805	6,946,627	1,384,200	14,650,103	10,105,005
当期利益	1,017,329				1,017,329	
当期損失				5,562,427		5,562,427
合計	8,720,805	8,720,805	6,946,627	6,946,627	15,667,432	15,667,432

財産目録

公益部

預金	協和銀行 麻布支店 普通預金	973,821
	富士銀行 " "	5,001
	第一勧業銀行 銀座支店 定期預金	500,000
	計	1,478,822
建物	秀和第三田網町レジデンス 813号室	5,504,917
什器備品	会議用机, 椅子, 書架, リコピー等	522,143
有価証券	清水建設株 7,905株	550,400
	東京電力株 1,101株	1,430,400
	株神戸製鋼所 10,000株	1,154,000
	新日本製鉄株 11,000株	1,162,170
	山一公社債投信 2,518口	25,206,952
	山一ファミリーファンド 400口	4,200,000
	八分利付国債 1,800口	1,777,500
		35,481,422
元入金	収益部へ元入	3,044,515.4
未払金	富士ゼロックス他	301,951
借入金	一時借入	50,000



基本金	第一勸業銀行 銀座支店 定期預金	500,000
	清水建設 株 2,000株	300,000
	計	800,000

通常財産	建物, 什器備品, 有価証券	39,761,100
積立金	既往年度益金積立	29,240,578
出版準備積立金	"	2,400,000

収益部

預金	協和銀行 麻布支店 普通預金	3,425
棚卸高	既往刊行図書残部	703,000
仮払金	民具辞典原稿料	228,375
貸付金	一時貸付	130,000
預り金	源泉税他	230,850
元受金	公益部より元受	30,445,154
繰越損金	既往年度損金繰入	24,038,097

損益金処分

昭和52年3月31日

公益部

当期利益金	1,017,329	
処分額		
積立金へ繰入	1,017,329	0

収益部

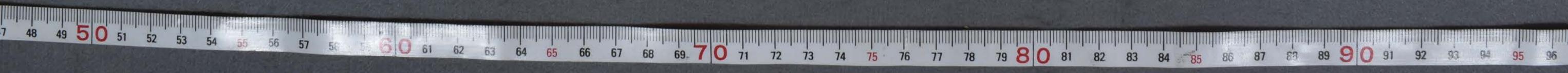
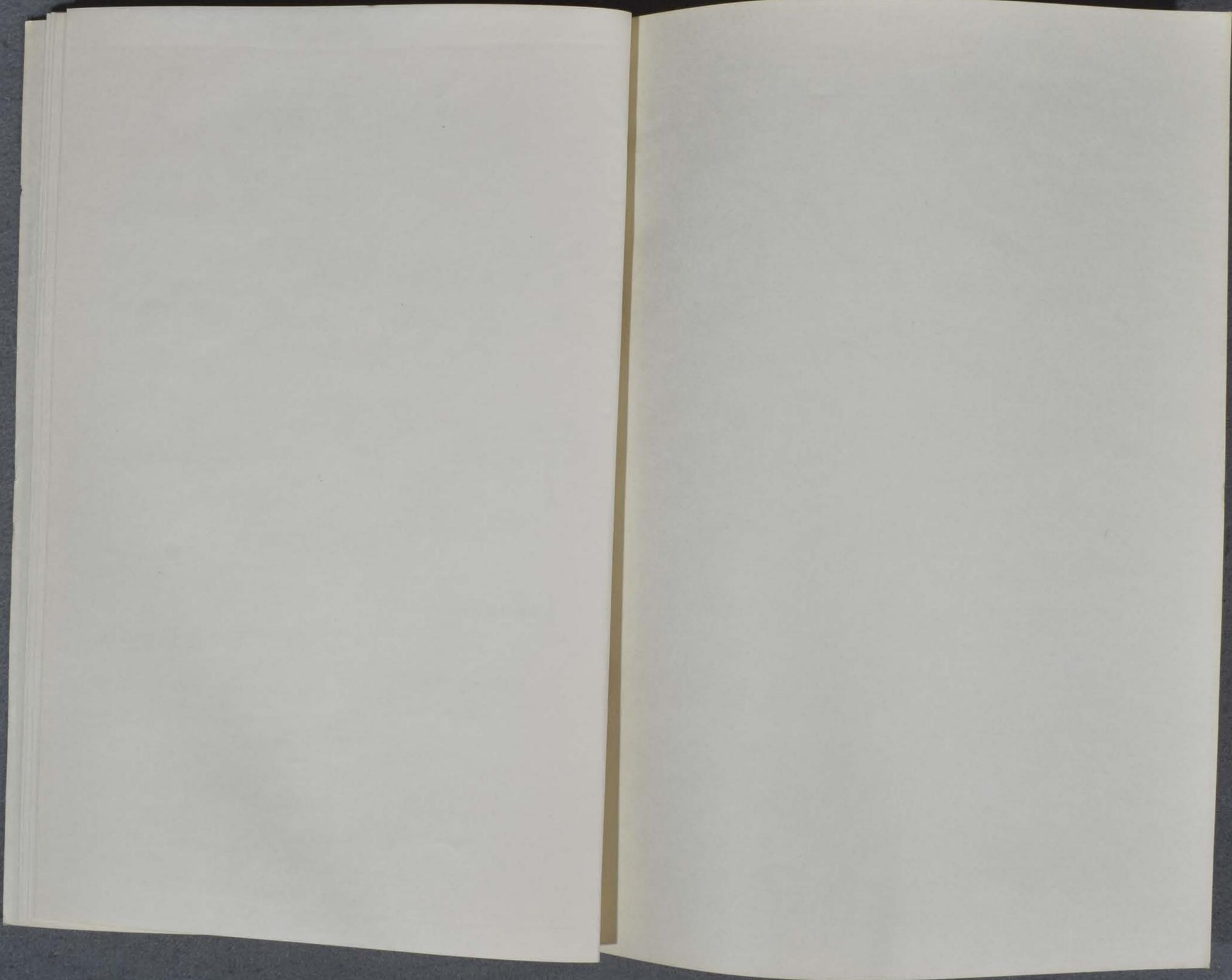
当期損失金	5,562,427	
処分額		
繰越損金へ繰入	5,562,427	0

決算報告書と諸帳簿を照合し相違ないことを証明します。

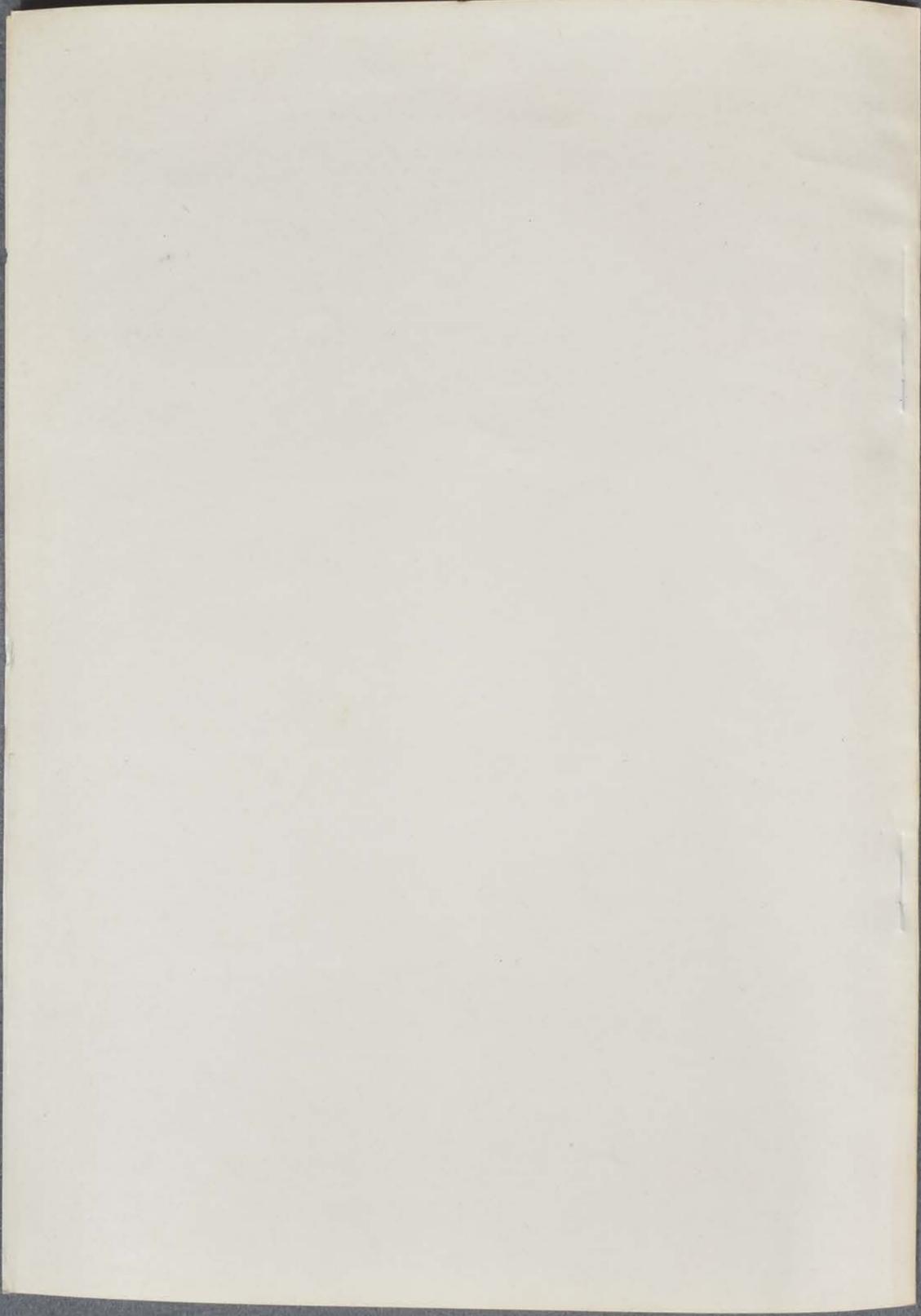
昭和52年6月1日

小宮山 若木

956-22



956-22



7 2 2

昭和 5 2 年 度

事 業 計 画

収 支 予 算 書

財 団 法 人 日 本 常 民 文 化 研 究 所



## 事業計画

## I 民具研究講座

本年度はまづ関西地区大学セミナーハウス（兵庫県三田市）において第4回の民具研究講座をおこなうことが決められている。そして地元側の世話役は近畿民具学会で、地方における講座開設は、はじめての試みにて、地域民具学会の成長がうかがわれることで喜ばしいことである。申すまでもなく、日本民具学会にたいする地域民具学会にていわゆる下部機関ではない。そしてとくに今回の試みは、原則的に参加者全員がセミナーハウスに宿泊し、文字どおり開催期間はお互いの話合い、親睦の時間をもつことが主眼である。

そして本年度の課題は、(1) 日本の農耕具 (2) 考古学と民具 (3) 民具学方法論で、例年の民具調査整理の実務が加わる。すなわちこのあたりで民具学のよつてもつて立たねばならぬ方法論について検討したいということで、それにはまず物質文化を扱う学問である考古学との関係について考えなければならぬ。われわれは考古学の対象をおおむね「出土民具」と考えており、出土民具と埋蔵民具との間に歴史的時間の差を除いては特に差異を認めてはいない。したがって両者は歴史的に連続したものであり、現在民具についてもその連続性において見る必要を認めている。より具体的に言えば、登呂遺跡発掘において代踏み用田下駄が発見された。肥料とする山野で刈りとる刈敷を踏みこむ用具である。最初はその用途が不明であつたが、近くの農民に聞くと今でも使用している上記のおおあし（大足）であると答えた。すなわち日本の水田稲作にあつては二千年にわたつて、まったく基本的に変化しない農具を使つていたことが判明したのである。象徴的に言つても、大足のあり方を民具の認識の一つの基本におくことができようかと思う。

まずここから方法論を考えると、現行のそれから形態と機能を明らかにすることからくる方法があり、両者をふまえた方法論の検討を行う予定である。

II 文化庁委託事業

つぎに文化庁委託事業として「小正月行事とモノヅクリ」と「富士講と富士塚」の調査研究がある。そして本年は東日本である。本事業の研究所事業のなかの比重は本年からひじょうに大きくなると思われる。まず後者から記すと、一おうの予測としては都市および都市近郊における富士塚の破壊がはげしく、富士塚を破壊から守ろうとすると、結局は国の重要民俗文化財の指定により、その価値を一般に知らせることを除いては方法が考えられない。そのための基礎調査を始めるわけである。富士講の調査研究については、富士講研究会の岩科小一郎氏（主宰）がすでに調査をはじめており、全面的に協力が得られることになった。一方、塚の保存は考古学において行われるように測量が不可欠であり、後者は別に専門家を依頼して発足することにした。地域は東京都下、神奈川県下である。本年は豊島区高松町浅間神社、台東区下谷坂本小野照崎神社境内（文政11年）および練馬区江古田（天保10年）の富士塚を中心に調査を行う。

なお「小正月とモノヅクリ」は民具の根原とも言うべき農業の豊作を予祝する小正月行事を明らかにすることにより、ケズリカケ・祝い棒・その他のヅクリモノを中心とする「信仰民具」の本格的調査で、地域としてはもつとも盛行している埼玉県秩父地方、越後妻有地方を中心とする。なお小正月は道祖神を中心とする人形（ひとがた）がつくれ祭られる時期で、あわせて中部日本においてモノヅクリの一つのあり方として見られる筈である。

III 水産庁委託の漁業制度史料整理

前年からの継続している、今後の日本漁業史の発展を期する基礎的な作業である。

昭和52年度収支予算

収入の部			
項目	区分	金額	備考
預金利息		70,000	
株式配当		1,700,000	
出版物売上金		200,000	
補助金		6,665,000	文化庁 水産庁委託
民具マンスリ-		1,250,000	
民具研究講座		500,000	
雑収入		60,000	
計		10,445,000	

## 支出の部

項目	区分	予算額	備考
人件費		4,500,000	
会合費		15,000	
旅費交通費		100,000	
消耗品費		250,000	
印刷費		100,000	
通信費		550,000	
共益費		70,000	
水道光熱費		70,000	
資料収集費		100,000	
調査旅費		20,000	
民具マンスリー		1,250,000	
民具研究講座		500,000	
労賃		2,460,000	
公租公課		30,000	
雑費		600,000	
負担金		1,000,000	文化庁委託
計		11,615,000	

7 2 2

